

火傷・日焼け

火傷について

火傷は原因や部位や大きさや程度により対処が異なります。状況に応じて、応急処置後に医師の治療が必要です。

火や熱風、太陽熱、電気、化学薬品、加熱したものによる火傷や熱湯や油など液体による火傷があります。

火傷の程度は、次のように分類されています。

第一度;軽い火傷。表皮の損傷だけなので、皮膚がヒリヒリと赤くなり、数日ですっかり治ります。海水浴などで、よく見られる日焼けもこれに相当します。

第二度;中程度の火傷。皮膚の真皮の損傷があり、皮膚は赤くなり、水泡が形成されます。水泡が破れると痛みが増します。治癒まで、10-30日程かかります。

第三度;重度の火傷。皮膚全層と皮下組織が損傷します。受傷部位は白くなり、ひどい時には焦げています。この状態では、血流がありませんので、非常に感染しやすい状態になっています。皮膚は壊死して、脱落していきます。体の三分の一に及ぶ広範囲火傷の場合は、生命にも影響します。大人の場合で、手の平が約1%、腕一本で9%、脚一本で18%を目安に計算します。乳幼児の場合には、10%程度の火傷でショック状態になることがあります。

火傷は、受傷直後の応急処置が非常に重要で、初期治療の遅れは後の治癒状態に影響してきます。

このような時は病院へ

セルフケアだけで対処できるのは、**第一度まで**です。また第一度であっても、広範囲の場合や顔や性器などの場合には、医師の診察を受けた方がいいでしょう。また第一度以上の場合には、必ず医師の診察を受けて、ホメオパシーはその補助として使います。

ホメオパシー服用

火傷した場合には、すみやかに応急処置をすると共に、すみやかにレメディを服用します。一般的なガイドラインとしては、6cから30cまでのポテンシーで、初期には15分間隔を目安とします。落ち着いてきたら、間隔を空けていきます。もしくは下記のホメオパシー治療の項目の回数で投与します。

家庭での応急処置

第一度や狭い範囲の第二度の場合；

きれいな水で冷やす。これで火傷の範囲を限定させます。

傷に付着しないガーゼ等で被覆します。

皮膚に水泡が出来た場合には、むやみに潰さないでください。

衣服が受傷部位に付いている場合には、無理やり脱がさず冷水で冷やしてください。

広い範囲の第二度や第三度の場合；

まず救急車に電話する。そこで応急処置の指示を確認してください。

できるだけ早くきれいな水で冷やします。

衣服は脱がしません。

初めに冷やしたら、体温が低下しないように、その後は保温に務めます。滅菌ガーゼが無ければ、きれいなシーツ、ラップやビニールで包んで、その上に毛布などで包みます。

ホメオパシー治療

セルフケアだけで対処できるのは、第一度までです。あとは必ず医師の処置が必要になります。

第一度

Apis mellifica；焼ける様な刺すような痛みを伴う炎症があり、皮膚が浮腫状に腫れて、触ると痛み過敏に反応します。10-30分おきに5-10回投与します。

Belladonna；患部が赤く熱くズキズキするのが特徴です。触ると痛みが悪化します。過度の日焼けにもよく使用されます。

Cantharis；火傷で最も多く使用されるレメディです。焼ける様な痛みを伴います。

Causticum；ヒリヒリした痛みがあります。火傷の跡の回復が遅い場合にも使用されます。

Urtica urens；皮膚に軽度の発赤が残り、チクチクする場合。特にお湯による軽度の火傷によく考慮されるレメディの一つです。30c を投与。

第二度

Cantharis；皮膚はすぐに焼けるように痛み、紅斑を起こし、水泡が出来ます。症状に応じて Apis を併用するとよいでしょう。化学薬品による火傷にもよく使用されます。

Aconitum napellus；火傷による急性のショックに使用します。中程度のポテンシーで10分ごとに2回投与します。その後 Cantharis を使います。

Carbolic acid；広範囲の火傷や化学薬品による火傷で考慮されることがあります。皮膚は潰瘍を起こし、不快な匂いがあります。

第三度;この段階では、通常の医師の治療を必ず受けて、その補助として使用します。

Aconitum napellus;火傷直後に素早く使用します。

Kali bichromicum;火傷の辺縁が明瞭で、くり抜かれたように潰瘍病変になっている例で使用します。黄色か黄緑色の分泌物を伴いません。

Arsenicum album;このレメディーは、火傷の痛みが夜になると再燃し、温めると楽になる例に使用されます。健康状態に不安を持っています。

Kreosotum;焼ける様な痛みがあり、Arsenicum-album と似ていますが、夜に悪化しません。また、病変部は、よりただれて出血と化膿が認められ、不快な匂いを伴いません。

Pyrogenium;この段階の火傷では、皮膚のバリアが無いために感染の危険に晒されます。上記レメディーに加えて、必ず併用します。

外用

内服と加えて火傷の初期に **Calendula** クリームを塗布するとよいでしょう。第二度以降の火傷の場合には、Calendula 母液はアルコールを含むため、使用しません。クリームや軟膏は使用出来ません。



Copyright@Morii 無断引用・転載を禁じます。